

# 音楽科学習指導案

日 時 令和 元年 5月17日(金) 1校時  
対 象 2年2組(男子18名女子18名 計36名)  
指導者 教 諭 徳 永 賢 子

## 1 題材 「混声合唱の響きを味わい、そのよさを伝えよう」

## 2 指導目標

- (1) 歌詞の内容や曲想、声部の役割と全体の響きとの関わりを理解させ、創意工夫を生かした表現に必要な歌唱の技能を身に付けさせる。【知識及び技能】
- (2) 音楽を他者と歌い合わせ、そのよさを味わい、伝える活動を通して、曲にふさわしい音楽表現を工夫させ、音楽表現に対する思いや意図の質を高めさせる。【思考力、判断力、表現力等】
- (3) 歌詞の内容や曲想、混声合唱の響きに関心を持ち、そのよさを味わい、伝える学習に主体的・協働的に取り組ませる。【学びに向かう力、人間性等】

## 3 題材の評価規準

- (1) 歌詞の内容や曲想、声部の役割と全体の響きとの関わりに関心を持ち、曲にふさわしい音楽表現を工夫しながら合わせて歌い、音楽のよさを伝える学習に主体的に取り組もうとしている。【音楽への関心・意欲・態度】
- (2) 歌詞の内容や曲想を味わい、声部の役割と全体の響きとの関わりを理解して音楽表現を工夫し、どのように合わせて歌うか、また、どのようによさを伝えるかについて思いや意図をもっている。【音楽表現の創意工夫】
- (3) 歌詞の内容や曲想、声部の役割と全体の響きとの関わりを生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けて歌っている。【音楽表現の技能】

## 4 教材

「翼をください」( 山上 路夫 作詞 / 村井 邦彦 作曲 )

## 5 題材について

### (1) 題材設定の理由

Society5.0が訪れようとしている中で、求められる社会像は、あくまでも人間を中心として、一人一人が他者との関わりの中で「幸せ」や「豊かさ」を追求できる社会といわれている。このような時代にあって、音楽科では、感性を働かせ、他者と協働しながら、音楽表現を生み出したり、音楽を聴いてそのよさや美しさなどを見いだしたりすることができる内容の改善を図っている。本校のオープンスクールに参加する小学生に向けたコンサートに向けて、混声合唱の響きを味わい、そのよさを伝えるために、協働で音楽を創意工夫しながら創り上げる本題材は、その音楽科の内容を踏襲するものとする。

本題材で取り扱う新学習指導要領の内容は以下の通りである。

- A表現 (1) ア 歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲にふさわしい歌唱表現を工夫すること。
- イ 曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び曲背景との関わりについて理解すること。
- ウ 創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能を身に付けること。

また、内容の取扱いについて配慮することとして、次の事項が示されている。

- (1)ア 音楽活動を通して音楽が生活に果たす役割を考えさせ、音楽と生活や社会との関わりを実感できるよう指導を工夫すること。
- イ 音楽表現に対する思いや意図、音楽に対する評価などを伝え合い、共感するなど、音や音楽及び言葉によるコミュニケーションを図り、音楽科の特質に応じた言語活動を適切に位置づけられるよう指導を工夫すること。
- オ 生徒が学校内外における音楽活動とのつながりを意識できるようにするなど、生徒や学校、地域の実態に応じ、生活や社会の中の音や音楽文化と主体的に関わっていくことができるよう配慮すること。

以上のことから、本題材である、混声合唱のよさを味わい、他者にそのよさが伝わるよう音楽表現を工夫する学習は、音楽の技能を身に付けさせるとともに、音楽科の学習が生活や社会とどのように関わり、どのような意味や価値をもつのかということに生徒が意識できる場面となると考える。また、コンサートに向けた音楽づくりは、自分の演奏が聴き手に認められ、評価される時に音楽の楽しさを一層感じることができ、音楽によって生活を明るく豊かなものにし、生涯にわたって音楽に親しんでいく生徒の育成につながると考え、本題材を設定した。

## (2) 教材について

「翼をください」は、長い間、歌い継がれてきたフォークソングで、グループやクラスで気楽に合唱が楽しめるため、いまだに根強い人気がある。本教材は混声三部合唱であるが、小学校6年生の教科書には同声二部合唱が掲載されており、小学校でもよく歌われているため、生徒にはなじみやすい曲である。小学6年生を対象としたコンサートでは、一緒に歌い合わせ、音楽のよさや合唱の楽しさを共有することも可能である。本教材の混声合唱の楽譜を、同声合唱の楽譜と見比べたり、歌い比べたりして、曲が進むにつれて、斉唱→混声二部合唱→混声三部合唱と次第にパートが増えていくように編曲されていることに気付かせ、その演奏効果を感じさせたい。また、それぞれの部分で、パートの役割を理解し、全体の響きを感じ取りながら、自分のパートをどのように工夫して歌うとよいかについて思考・判断し、音楽表現を工夫することができる。さらに、前半の付点二分音符中心のゆったりしたリズムと、後半の八分音符が中心の密集したリズムとの対照が特徴で、旋律とピアノ伴奏のリズムが生み出す曲想の変化を感じ取りながら、表現を工夫させることもできる。

### (3) 生徒の実態について

今回の学習に取り組むに当たって、生徒の音楽に対する実態の一面を知るために、次のようなアンケートを実施した。

(平成31年4月5日 男子18名 女子18名 計36名 実施)

1 合唱をすることは好きですか。

好き (16人) ・ どちらかというとき好き (11人)

【理由】

- ・ みんなと合わせると楽しい
- ・ 心を合わせて音楽をつくるのは楽しい
- ・ パートの重なりがきれい
- ・ 自分の声が周りとは合わせるのが楽しい
- ・ スプリングコンサートで、合唱したのが楽しかった
- ・ 歌うことが好き
- ・ 一体感がよい
- ・ ハーモニーがだんだんきれいになるのが嬉しい
- ・ 歌うと心がすっきりする

どちらかというとき嫌い (3人) ・ 嫌い (6人)

【理由】

- ・ 楽譜が読めない (2人)
- ・ うまく音がとれない (4人)
- ・ 男声が出ない (2人)
- ・ 恥ずかしい (1人)

2 中学1年生の音楽の学習を通して表現力が高まったと思いますか。

高まった (22人) ・ どちらかというとき高まった (12人) ・ どちらかというとき高まらなかった (2人)

3 これまで自分の演奏 (発表など) を他者に喜んでもらった経験がありますか。

ある (19人) ない (17人)

「他者」とは…家族・先生・友人・親戚・先輩

4 演奏するときに、その音楽の魅力 (よさや特徴) を感じたり理解したりして演奏していますか。

はい (29人) いいえ (7人)

5 演奏するときに、その音楽の魅力 (よさや特徴) を伝えようと心掛けていますか。

はい (27人) いいえ (9人)

6 鑑賞や表現で取り扱った曲の音楽の魅力 (よさや特徴) について説明することは得意ですか。

得意 (7人) ・ どちらかというとき得意 (10人) ・ あまり得意でない (14人) ・ 得意でない (5人)

本校は、朝の会・帰りの会で毎日歌う習慣があり、学校行事でも合唱を演奏する等、合唱に親しむ機会が多い。本学級の生徒は、これまでにスプリングコンサートと称して、保護者に音楽の学習の成果を発表したり、卒業式では卒業生へ、入学式では新入生へ合唱を贈ったりする経験を通して、音楽を協働で創り上げる楽しさや、歌い合わせる喜びを味わっている。これらのことが、アンケート質問項目1の合唱が「好き・どちらかというとき好き」と75%の生徒が答え、また、アンケート質問項目2においては、中学校1年間の音楽の学習における成長を自分なりに感じていると94%の生徒が答えているという回答結果につながっていると思われる。しかし、自分の演奏を他者に喜ばれ、認められたという実感をもっている生徒は、本学級の53%にとどまっている。その「他者」とは、自分の家族や学校の先生等、日頃から親しくしている身近な人が多い。初めて会う人や地域の人等、社会に広がりのある「他者」に自分たちで創り上げた音楽を聴いてもらい、音楽に乗せた思いや意図が伝わる経験をすることができれば、自分の音楽に対する価値や音楽の有用性をより深めることができると考える。また、アンケート質問項目4～6の結果から、音楽のよさや美しさを自分なりに捉え、伝えようとする思いはあるものの、52%の生徒が伝え方に苦手意識を感じている。音楽に対する思いや意図を伝える場面を設定することで、音楽のよさや美しさについて考えさせ、批評する力を身に付けさせることができると考える。また、アンケート質問項目1で合唱を「どちらかというとき嫌い・嫌い」と

25%の生徒が答えている。その理由として、技能の未熟さや恥ずかしさが挙げられている。本題材の学習を通して、技能の向上や達成感を味わわせ、これからの合唱活動への意欲を高めさせたい。

#### (4) 指導に当たって

生徒の実態を踏まえ、本題材を扱うに当たり、次のようなことに留意して学習を進めていきたい。

ア 異年齢交流を目的としたコンサートの成功に向けた学習活動を設定し、他者に伝わる音楽づくりへの関心を高め、協働的・主体的に学習に取り組む態度を育てたい。

イ グループで音楽のよさが伝わる表現を試行錯誤する活動を通して、他者とともに音楽を創り上げ、音楽を共有する喜びを感じさせたい。

ウ 「音楽の魅力の3つの観点」を楽曲分析や音楽表現の工夫の場面に活用し、音楽の知識・技能を身に付けさせるとともに、音楽の見方・考え方を広げさせたい。

エ コンサートで音楽を伝えたい相手である小学生に、事前に演奏を聴かせ、感想等をインタビューした内容から、課題を見つけさせ、課題解決に向けて、音楽表現を工夫させたい。

オ 音楽の見方・考え方を広げるワークシートや個の進捗状況やつまずきを見取る評価シートを作成し、個の支援や指導の改善に生かしたい。

## 6 指導計画(全4時間)

時	主な学習活動	単位時間における評価規準		
		音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
1	1 題材のねらいや学習の流れについて理解する。 2 「翼をください」の同声合唱と混声合唱の楽譜を見比べて、気付いたことを発表する。 3 パート練習をする。 4 全体で合唱をする。	声部の役割と全体の響きとの関わりについて関心をもっている。		声部の役割と全体の響きとの関わりについて理解している。
2	1 パート練習をする。 2 全体で合唱をする。 3 歌詞の内容や曲想を味わって、グループで表現を工夫する。		歌詞の内容や曲想を味わい、声部の役割と全体の響きとの関わりを理解して音楽表現を工夫している。	歌詞の内容や曲想を生かした、曲にふさわしい音楽表現をするために必要な技能を身に付けて演奏している。
3	1 小学生の合唱と自分たちの合唱を聴き比べ、混声合唱のよさについて話し合う。 2 小学生に伝えたいよさを考え、思いや意図が伝わる音楽表現について考える。		声部の役割と全体の響きとの関わりを理解し、どのように演奏するかについて思いや意図が伝わる表現の工夫をしている。	声部の役割と全体の響きとの関わりを生かした、曲にふさわしい音楽表現をするために必要な技能を身に付けて演奏している。
4 (本時)	1 「翼をください」のよさについて確認する。 2 小学生のインタビューからどのような表現の工夫が更に必要か考え、練習する。 3 まとめの合唱をする。	音楽による異年齢交流に関心をもち、小学生によさが伝わる合唱を工夫する学習に主体的・協働的に取り組んでいる。		歌詞の内容や曲想、声部の役割と全体の響きとの関わりを生かした、曲にふさわしい音楽表現をするために必要な技能を身に付けて演奏している。

## 7 本時の実際

### (1) 授業設計上の工夫

#### ア 「音楽のよさを伝える」「音楽のよさが伝わる」場の設定

8月の本校オープンスクールでの授業参観において、「中学校のよさを伝えるコンサート」を計画している。コンサートは、小学6年生に音楽の美しさや中学生ならではの混声合唱のよさやおもしろさを伝えることで、中学校の学習に期待をもってもらうことをねらいとする。音楽や混声合唱の響きのよさが小学生に伝わる演奏にするために、試行錯誤しながら音楽の表現を工夫させたい。また、他者に伝える合唱を創り上げようとする過程で、音楽に対して新たな発見をし、改めて音楽の価値を認識させることになると考える。このような相手を意識した演奏の場を設定することで、音楽の有用性を感じさせ、これからも音楽に親しみ、関わっていこうとする態度を育てたい。

#### イ 外部人材によるアドバイスの活用

小学生を対象にしたコンサートは、音楽における異年齢交流の場になる。「音楽のよさを伝え、音楽のよさが伝わる」という双方向の音楽のやりとりを可能にするために、練習の過程で小学生に音楽を聴いてもらい、その感想等から自分たちの演奏の課題を見つけ、課題解決を行う学習を通して、音楽表現の技能の向上や音楽表現の更なる創意工夫につながると考える。本時は、事前に小学生に行ったインタビューの様子を活用することにした。

#### ウ 楽曲分析のための「音楽の魅力の3つの観点」の活用

「音楽の魅力の3つの観点」を楽曲分析や音楽表現の工夫の場面に活用し、音楽の知識・技能を身に付けさせるとともに、音楽の見方・考え方を広げさせたい。本時は「音楽の魅力の3つの観点」をワークシートに取り入れ、音楽を創っていく中で、音楽に対する気付きや思いを書き加えていけるようにした。また、小学生のインタビュー内容をこの観点で分析し、自分たちの課題を見つける手立てとした。

#### エ ワークシート・評価シートの工夫

音楽の見方・考え方を広げるワークシートや個の進捗状況やつまずきを見取る自己評価シートを作成した。ワークシートについては、音楽への自己の思いや意図が深まっていく様子が見取れるような形を目指した。題材の学習について振り返らせる自己評価シートは、学びの段階の見通しをもたせやすく、また、振り返りがしやすいように学習過程ごとにルーブリックを設定した。

### (2) 本時の指導目標

- ア 歌詞の内容や曲想、声部の役割と全体の響きとの関わりを生かした、曲にふさわしい音楽表現をするために必要な技能を身に付けさせる。 【知識及び技能】
- イ 歌詞の内容や曲想、声部の役割と全体の響きとの関わりを理解し、音楽のよさをどのように伝えるかについて思いや意図をもって表現させる。 【思考力、判断力、表現力等】
- ウ 音楽による異年齢交流に関心を持ち、小学生によさが伝わる合唱を工夫する学習に主体的・協働的に取り組ませる。 【学びに向かう力、人間性等】

### (3) 本時の評価規準

- ア 音楽による異年齢交流に関心を持ち、小学生によさが伝わる合唱を工夫する学習に主体的・協働的に取り組んでいる。 【音楽への関心・意欲・態度】
- イ 歌詞の内容や曲想、声部の役割と全体の響きとの関わりを生かした、曲にふさわしい音楽表現をするために必要な技能を身に付けて演奏している。 【音楽表現の技能】

(4) 本時の展開 (4/4)

過程	時間	主な学習活動	形態	指導上の留意点(◆は評価の観点)
導入	10分	1 「翼をください」を合唱する。 2 「翼をください」のよさについて発表する。 3 本題材のねらいを確認し、本時の学習課題と学習の流れを把握する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">             小学生によさが伝わる合唱にするには、どのような表現の工夫が必要だろうか。           </div>	一斉	1 これまでの学習内容を振り返り、コンサートの目的・目標を再確認する。 <b>【教科論 5(1)ウ a 「音楽のよさを伝える」「音楽のよさが伝わる」場の設定】</b> 2 「音楽の3つの魅力」の観点を活用しながら、これまでの学習過程で音楽に対する自分の見方・考え方が広がっていることを実感させる。 <b>【教科論 5(1)イ b ワークシートの工夫】</b> <b>【教科論 5(1)ア a 音楽の魅力の3つ観定の活用】</b> 3 本時の学習課題と学習の流れを理解させる。 ○ 本時は、これまでの学びを生かして、合唱を仕上げ、コンサートにつなげていくことを理解させる。
展開	20分	4 そのよさが、実際に小学生に伝わっているか、インタビューの様子を見て、よさが伝わる合唱にするための課題について話し合う。 5 小学生によさが伝わる音楽表現をグループで工夫する。 6 グループで工夫した点を発表する。 7 全体で工夫した点を確認する。	一斉  グループ  グループ  一斉	4 インタビューから課題を見つけさせる。 ○ 小学生に前時の合唱を聴かせ、感想等をインタビューした動画を用意する ○ 伝えたいことが実際に伝わっているかという視点で、ワークシートに課題を記入させる。 <b>【教科論 5(1)イ a 外部人材のアドバイスの活用】</b> <b>【教科論 5(1)イ b ワークシートの工夫】</b> ◆評価ア 5 グループで課題解決に向けて、音楽表現の工夫をさせる。 ○ 実際に表現をさせながら、内容を検討させる。 ◆評価ア 6 工夫した点について、言葉や演奏で表現させる。 ◆評価イ 7 全体で工夫した点をまとめながら、音楽を練り上げていく。 ◆評価イ
終末	10分	8 本時のまとめと振り返りをする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">             ・ 曲想の変化              ・ 音色の変化              ・ 豊かな表情 等           </div> 9 オープンスクールのコンサートについて見通しをもつ。	一斉個   一斉	8 まとめの合唱をし、題材の振り返りをさせる。 ○ まとめの合唱は録音する。 ○ 評価シートを記入させる。 <b>【教科論 5(1)イ b 評価シートの工夫】</b> ◆評価アイ 9 コンサートでは、これから学習する曲も演奏することを伝える。

